

## 令和3年度第1回仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和3年9月21日（火）14:00～15:55

場所：土佐市複合文化施設つな一で 3階 大会議室

出席：委員23名中、21名が出席（うちオンライン参加8名）

議事：（1）産業振興計画関連会議 年間スケジュールについて

（2）地域アクションプランについて

1）仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

2）修正の案件について

（3）産業成長戦略について

1）観光振興の取り組みについて

2）移住促進の取り組みについて

3）関西・高知経済連携強化戦略の取り組みについて

議事（1）（2）（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）  
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）産業振興計画関連会議 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

（2）地域アクションプランについて

1）仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

（No.23 「奇跡の清流仁淀川」流域の広域観光推進）

（小田委員）

進捗状況について主要宿泊施設の宿泊数と観光施設の入込客数が伸びているとのことだが詳細を教えてほしい。資料があればお願いしたい。

（廣瀬地域産業振興監）

コロナ禍において、本年の7月までの期間をみると昨年度よりも増加傾向にあったが、8月までになると減少に転じている。具体的には、（1）の本年8月末までの仁淀ブルーのツアーの送客数255人に対し、2年度が358人、元年度が3,746人となっている。また（2）の本年7月末までの主要宿泊施設の宿泊者数11,587人に対し、2年度が6,128人、元年度が22,303人。同様に（3）の本年7月末までの入込客数59,386人に対し2年度が39,208人、元年度95,836人となっている。以上が、コロナ禍の今年と昨年、コロナ前の一昨年の数字である。

2）修正の案件について

意見交換等、特になし。

（3）産業成長戦略について

## 1) 観光振興の取り組みについて

(中山委員)

昨年からお茶の体験事業をしており、その中で気がついた2点についてお伺いしたい。

まずは龍馬パスポートについて。県外観光客で龍馬パスポートを利用する人がとても多く、みなさんに話を聞くと龍馬パスポートの冊子を参考に新しい参加施設を探していることが分かった。

先ほどの説明で、これから色々な取り組みをしていくと伺ったので、パスポートの押印に繋がるように取り組んでいただきたい。

もう一点は、コロナ禍で公共交通の利用ではなく自家用車やキャンピングカーの利用が観光客にとっても人気のようだ。キャンピングカーで高知に来たときに、充電や水、シャワー室などを利用できる施設が県内にどれぐらいあるのかお聞きしたい。

(観光政策課 鈴木課長)

龍馬パスポートは、取り組みを始めて約10年経ちパスポート保有者は全国で24万人ほどいらっしゃる。龍馬パスポート事業がリピーターや移住にもつながっているので、引き続きパスポート自体は継続していきたいと考えている。

観光事業を今後「食」をテーマに取り組んでいくので、酒や地域のお店等にも、使えるような仕組みを今後考えていきたい。

キャンピングカーで利用できる施設については、手元に資料がないため数をお答えできないが、ここ数年でいろいろなアウトドア施設が各地にできており、今後もできる予定である。

マイカーやキャンピングカーで利用してもらえる設備を備えた施設も増えてきている。

(大山委員)

アフターコロナを見据えた誘客戦略について、県内観光需要の早期回復を図るという対策案は大事なことだと思うが、関西・高知経済連携強化戦略の中の観光推進プロジェクトとの整合性を持ってやってほしい。

また、誘客戦略の中で「食」を前面に出していくということだが、例えば性別や年齢階層の違いを一括で捉えるのではなく、いろいろな属性の違いも踏まえた検討をしていただきたい。

そしてもう一点、食の中に載っている「土佐井王国」。これはこれでいいと思うが、昔から高知と言えば皿鉢というのがあるわけで、そういったものも検討していただきたい。

(観光政策課 鈴木課長)

まず、関西戦略と今後の戦略の整合性については、最初に説明したのが関西向けも含めた全国向けの戦略で、後段に説明したのが、その中でも関西向けということになる。

関西からの観光客は県外客の4分の1を占めており、大きなマーケットであることは間違いないので、関西向けというところはキャンペーン等の中でも重視していきたいと考えている。

また、属性の違いを踏まえてという点もおっしゃるとおりで、龍馬パスポートの約24万人のユーザーの年齢や性別、どのエリアに住んでいるか等の履歴情報を分析しながら、よりきめ細かく属性に応じた戦略をとっていききたいと思う。

そして、土佐の伝統的な皿鉢料理は一つの大きなコンテンツではあるが、旅館やホテル関係者の話を聞くと、コロナ禍ではこれまでどおりの提供がしばらくできないのではないかと思います。

れる。皿鉢から懐石に、という動きもあるようだが、いずれにしても土佐の「食」としては外せないものなので、コロナが収まったらおきやくも含めて楽しめるように考えていきたい。

(堀見委員)

高知県の食、酒の文化といえば返杯・献杯の文化が強いが、アフターコロナの中で県としてどのように考え、どのように情報発信していくのか。県として来年以降、食、酒を売りにした観光キャンペーンをやっていく中で、重要な問題だと思っているがこれらをどのように考えているか教えていただきたい。

(観光政策課 鈴木課長)

県としての見解を今は持ち合わせていないが、「食」を中心としたキャンペーンを展開していくときに、来年の1月頃がコロナによる行動制限の緩和等の潮目が変わってくる時だという想定で検討を進めている。特に3月の「土佐のおきやく」は、対外的に酒文化を発信する民間主導で行っているシンボリックなイベントであり、予定どおり行われるようであれば、PRしていけるチャンスだと考えている。

コロナの状況にもよるが、冬から春にかけての時期に潮目が変わる想定しながら、今後のキャンペーンの予定を組んでいるところである。

(堀見委員)

その潮目が変わるとするのが難しい。コロナウイルスと共存しながら日常を取り戻していかなければいけない。

県内で返杯・献杯の決断、判断をするというのは民間に任せることはできないだろうし、極端な話、全国に対して高知県としてどうするのかを対外的に明確に言わなければいけないくらい、政治的な部分が大きいことだと思っている。

なあなあでいくと大きなバッシングを浴びる可能性が高いと思うので、県として大きな判断、決断をしていただきたいと思う。

(松木委員)

佐川町長の言うとおりの返杯・献杯のことも含めてアフターコロナの方策を高知県としてどうしていくかを考えていかなければいけないと思う。1月から収束しそうだからこうしたらい、ということでは実現性が乏しい。ワクチンの接種証明があれば、ここまでは容認できるといった明確な基準をもって計画を立てなければいけないのではないかな。

(観光政策課 鈴木課長)

行動制限の緩和の方針等、国の状況も注視し、ご意見等を踏まえながら、今後、県としてどういった形で進めていくのかを十分に議論をしていきたい。

(松木委員)

希望としては、高知県が全国に先駆けて前向きな発信をしてくれたら、経済界ももっと前向いて進むのではないかなと思う。高知県はこうするんだという独自性も必要だと思うのでよろしくお願ひしたい。

(廣瀬地域産業振興監)

いただいたご意見を本庁と共有し、連携しながら進めていきたい。

## 2) 移住促進の取り組みについて

(戸田委員)

移住促進の取り組みについて、高知県は人口減少、高齢化が進んでおり、移住者を迎えるのは大変重要な課題である中で、先ほどの説明では高知県の空き家率が全国一なのに移住者のニーズに合った住宅の確保ができず、チャンスロスが大変多いとのことだが、空き家を確保せずにお客様に来てもらってもお断りすることになる。民間で言えば、お客様を集めたのに商品がないということになると、二度とそのお客様には来てもらえなくなるような状況である。今後の空き家の確保についてどう考えているのか。

(移住促進課 山本補佐)

空き家はあるが移住者が希望する空き家をなかなかマッチングできていない。県内の空き家の活用については土木行政が取り組んでいるところだが、移住者に特化したものではない。県外に住んでいる空き家の持ち主が、荷物の問題などで手放すことが難しいという実態もある。

市町村にやっていただく部分が多いと思うが、県としても、空き家の活用を早い段階で持ち主の方に決断していただき、それらを補助して改修し、いい形で使ってもらおうという好循環を生み出していくための具体的な取り組みを関係部署と検討しているところである。

## 3) 関西・高知経済連携強化戦略の取り組みについて

意見交換等、特になし。

## 4) その他

(越知町企画課 大原課長)

委員ではありませんが2点報告をさせていただきたい。

昨年度フォローアップ会議で、仁淀川流域の移住の実績が少ないというご意見をいただいたことから、廣瀬振興監と協議を行い、流域で移住担当者会を開催した。その後移住の協議会を作ったことで他市町村と一緒に取り組むことができるようになった。先ほど意見のあった空き家についても担当者会で取り上げていき、今後も仁淀川流域で移住の促進をしていきたい。

また、「竜とそばかすの姫」の映画の影響もあり、舞台のモデルにもなった浅尾の沈下橋にも短期間で大勢の観光客が来てくれている。観光客に協力していただいたアンケート結果によると関西から来た人が多い。先ほどの関西・高知経済連携強化戦略における関西と高知を結ぶ新たな旅行商品の創出の中で、できれば映画の舞台のモデル地を活用するなど、仁淀川流域だけではなく、高知県全体の観光ツールの一つとして使って、関西の人を呼び込んでいただきたい。

(観光政策課 鈴木課長)

10月の中旬から関西、関東で旅行会社向けに、来年4月以降の商品造成をプロモートする会議(商品説明会)が県の観光コンベンション協会主催で行われる。その中でも新たな商品素材として「竜とそばかすの姫」をベースとしたPRをさせていただきたいし、そういった商品づくりが進むよう県としても後押ししたいと考えている。

(以上)